

中学
2～3年

教材名 「二通の手紙」 (出典「私たちの道徳」文部科学省)

きまりの意義

◆◆◆教材の概要◆◆◆

主人公の元さんは、動物園の規則を知っていながら、幼い姉弟の思いに同情し、入園を許可してしまう。元さんの行為は、母親からは感謝されることになったが、規則を破って入場させたことから大騒ぎとなり、その結果懲戒処分を受けることになった。

姉弟の母から届いた感謝の手紙と動物園から渡された懲戒処分の通告書。元さんが手にした「二通の手紙」は社会における人間としての生き方について考える機会を与えてくれる。本教材は、心の葛藤を引き起こす内容であり、社会における法やきまりの意義について深く考えることのできる教材である。

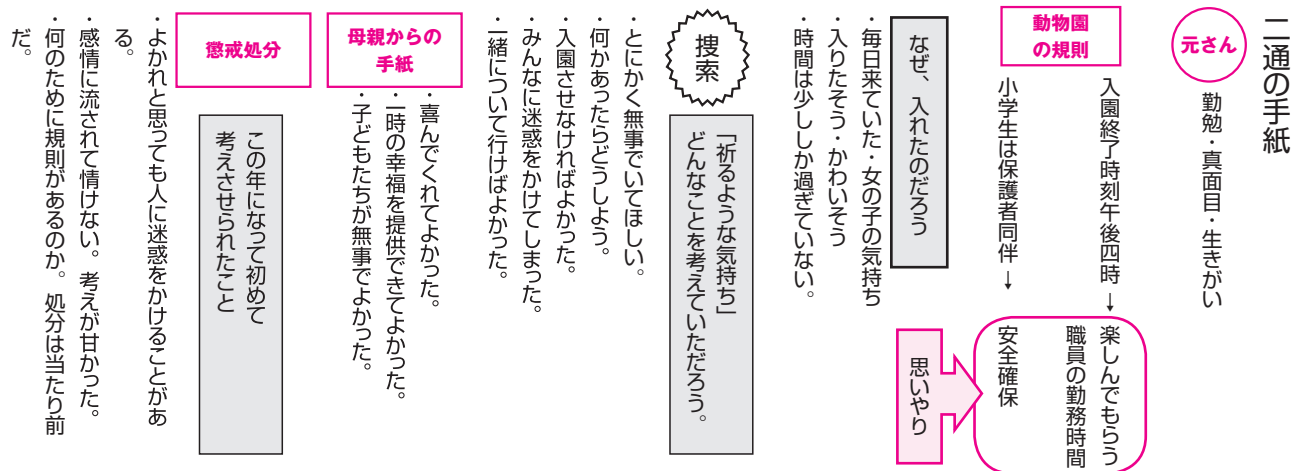
◆◆◆教材の活用◆◆◆

元さんの行為は、心情的には十分理解できるものではあるが、姉弟の生命に関わる問題として発展しかねないものである。姉弟を思いやった元さんの行為と母親からの感謝の手紙から、懲戒処分への反発や時には規則は破っても仕方がないものだという気持ちが湧いてくることもある。しかし、それらは、姉弟が無事であったからである。一見、思いやりと規則の尊重との道徳的価値が対立しているようであるが、そもそも動物園の規則が何のためにあるのかを考えることで、対立ではなく元さんの思いやりに問題があることに気付くであろう。動物園の規則の理由、祈りながら待つ元さんの思い、母親の手紙に込められた姉弟への愛情に気付かせることで、法やきまりの意義について深く考えさせたい。

◆◆◆中心発問◆◆◆

元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とはどんなことだろう。

◆◆◆板書計画◆◆◆



◆◆◆道徳的価値「遵法精神」について◆◆◆

遵法精神は、公德心によって支えられている。公德心とは、社会生活の中で守るべき正しい道としての公德を大切にする心である。また、他人の権利を尊重し、自分の権利を正しく主張するとは、お互いの権利の主張が調和し両立できるようにすることである。自らに課せられた義務を果たすことが、結果として規律ある安定した社会の実現に貢献することになる。義務とは、ここでは人に課せられる法的拘束であり、自分の好き嫌いに関わりなくすべきことである。指導に当たっては、法やきまりは自分自身や他者の生活や権利を守るためにあり、それを遵守することの大切さについての自覚を促すことが求められる。また、「遵法精神」には、「自分を裏切らない」という自尊心と、目の前の相手の心情に思いを巡らせ、外見からうかがい知れない人の心情を想像できる思いやりが関わっていることに気付かせることが大切である。

◆◆◆学習指導案（本時のねらいと展開）◆◆◆

本時のねらい

二通の手紙を受け取り、元さんが「考えさせられたこと」を考えることを通して、規則の意義を理解し、自ら規則を守ろうとする道徳的判断力を育てる。

本時の展開

	学習活動	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	・ 本時の学習に関心をもつ。	身の回りのルールやきまりにはどんなものがあるだろう。 ・ 校則・交通ルール・憲法等	・ 身近なルールやきまりを思い浮かべさせ、本時の学習に関心をもたせる。
	・ 教材を読み、登場人物とあらすじを確認する。 ・ 動物園の規則の確認と元さんが姉弟を入選させた理由を考える。 ・ 姉弟の安否連絡を待っている時の元さんの気持ちを考える。	なぜ元さんは、規則を破ってまで姉弟を入園させたのだろう。 ・ 毎日来ていたことを知っているから。 ・ 姉の思う気持ちがわかったから。 ・ 毎日毎日入りたそうにしていたから。 ・ せっかく来たのにかわいそうだから。 ・ 時間は少ししか過ぎていなかったから。 連絡を待っていた元さんは、どのようなことを考えていただろう。 ・ とにかく無事に見つかってほしい。 ・ 入園させなければよかった。 ・ 何かあったら取り返しがつかない。 ・ みんなに迷惑をかけてしまった。 ・ 一緒についていけばよかった。	・ 元さんの人柄を押さえる。 ・ 元さんが破った園の規則を確認する。 ・ 「祈るような気持ち」で待っていたことを押さえて発問する。 ・ 元さんの行為の問題点に気づかせる。 補助発問： 「入れなければよかった」 →そう思う理由を問う。 「迷惑」→具体的にどんなことかを問う。 ・ 発見された場所は雑木林の中の小さな池で、一歩間違えれば、命に関わる問題になっていたことを押さえる。
	・ 母親の手紙を読んだ元さんの気持ちを考える	元さんはお母さんからの手紙を読んでどんなことを考えただろう。 ・ 親子に幸せな一時を提供できてよかった。 ・ 子どもたちが無事でよかった。 ・ こんなに大切な子どもたちに何事もなくよかった。	・ 感謝の気持ちは嬉しいが、無事だったからこそその感謝であることを押さえる。
	・ 二通の手紙から元さんが学んだことを考える。	元さんが「この年になって初めて考えさせられたこと」とはどんなことだろう。 ・ 感情に流されてしまった自分が情けない。 ・ 結果オーライではない。 ・ よかれと思ってしたことでも、多くの人に迷惑を掛けてしまうことがある。 ・ 何のためにこのような規則があるのかを改めて考えさせられ、処分に納得できた。 ・ 自分の考えが甘かった。	・ 規則の意義を再確認した元さんの思いを考えさせる。 ・ 元さんが破ってしまった規則は何のためにあるのかを再度確認し、規則の中にある思いやりに気づかせる。 →入園時刻・・・入園者に十分楽しんでもらう時間の確保。職員の勤務時間。保護者同伴・・・子どもの安全 ・ 規則は時には破ってもよいという意見や園の処分が納得できないといった意見に偏った場合は、「佐々木さんが、若い女の子たちの入園を断ったのはなぜか」を考えさせ、園の処分に納得できなかった佐々木さんが元さんから学んだことを捉えさせる。
終末	・ 本時の学習を通して考えたことをまとめる。	この時間に感じたこと、考えたことをまとめよう。	・ 意見を交流し、本時の学びをさらに深めさせる。

評価の視点（例）

- 話し合い活動や振り返りの中で、規則の意義について多面的・多角的に考えようとする発言や記述がある。